

『まいこばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。

スパークスの日本株の情報発信レポート

第23号(2009年10月5日)



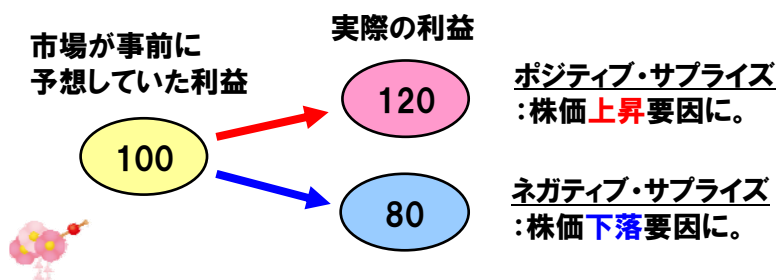
「ボトムアップ・リサーチは継続性も大切」

ボトムアップ・リサーチとは、ファンド・マネージャーやアナリストが企業一社一社を実際に訪問し、調査、分析することをいいます。読者の皆様にはこの「まいこばなし」で、その意義や考え方について何度かお伝えしてまいりました。スパークスにおいては、その回数は年間約4,000回に及んでいます。現在の日本の上場企業数が約3,800社ですので、スパークスは全上場企業を最低一年に一回は調査、分析しているとお考えの方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、実際には**一企業を何度も何度も、調査、分析しているケースが多い**のです。最も多い場合では、月次売上動向を把握するために“毎月”同じ企業を調査しているケースもあります。そこで今回は、「なぜ同じ企業に継続してボトムアップ・リサーチを行うのか」について、お伝えしたいと思います。

株式投資において、株価が一番動くのはどのようなケースでしょうか？それは「**市場が予想していない結果が出た時**」です。その結果によって、株価は大きく動きます。これを私たちは『サプライズ(=驚き)』と表現しています。企業を調査、分析するアナリストは、このサプライズを把握する必要があります。すなわち、アナリストは調査した企業について、「市場参加者が100の利益を予想しているが、実際には120の利益が出る可能性がある。従って、その結果がポジティブ・サプライズとして市場に受け止められ、株価の上昇が期待できる」といった結論を出すことが求められます。(ネガティブ・サプライズは逆の結論。)

この判断は一年に一回の調査では難しいため、何度も継続して調査することで投資判断の精度を向上させるよう努力しています。



このようなサプライズを事前に予測するために、頻繁な企業調査が必要なんですね。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート



また、継続したボトムアップ・リサーチにはもう一つ、大切な役割があります。それは、「**企業の変化にいち早く気付くことができる**」ということです。「あれ？これは今までにない戦略だぞ」「おや、経営者のコスト管理に対するコメントが変化しているぞ」等々、何度も何度も同じ企業を訪問することで、今までとは違う方向に企業が動き出す兆しにいち早く気付くことができる、と考えています。

そして、このような企業の方向転換が奏功した場合、株価は中期的な上昇基調を描くことがあります。従って、スパークスのファンド・マネージャーやアナリストは、こういった企業の変化に敏感になることで、企業の経営陣が下した判断が本当に期待通りの結果を出せるのかについて、日々考え続けています。



一方で、頻繁に企業調査を行うにあたっては、慣れによって企業の変化に気づきにくくなる、というリスクも想定しなければなりません。皆さんも、日々通い慣れた通勤経路で、「いつの間にかここにあった店が閉店している」「こんなところに自動販売機なんてあったんだ」といったように、慣れているからこそ気づきにくい、といった経験をしたことがあるのではないのでしょうか。

このような慣れが生まれまいよう、常に **注意深く新鮮な気持ちで企業を調査する** よう心掛けています。

スパークスでは、このように丹念に行われた調査内容が共有されているので、全社的に企業の現状を把握できるような仕組みになっています。これからも、このような地道な調査活動を通じて、魅力的な投資先企業を発掘できるよう、精進してまいります。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。